

あなたの暮らしに雨水を

B.建物・施設でできること

熊谷 直人

近年、台風や大雨が多くなっており、各地で内水氾濫や破堤など様々な被害が起こっている。

これも地球温暖化の影響で、これからさらに強い雨が降ると予想されている。

それに反し、福岡県は渇水が起きやすいところであり、過去のデータの傾向から、数年後に全く雨が降らない年が出てくると予想されている。

水は私たちにとってなくてはならないものであるが、時に水は私たちの脅威になる。

したがって、雨水をうまく活用し、また、雨水による被害をできるだけ最小限に抑える必要がある。

ここでは、雨と仲良く暮らすために、建物・施設でできることについて、私のアイデアを述べていく。

まず、私は野球場で考えた。野球場はとても広く、それに伴い駐車場も広い。この広いスペースを調整池にすれば大雨の際、多くの雨水を貯めることができるのではないかと考えた。そのために駐車場を地表面よりあらかじめ低く作るべきである。そうすることによって、大量の雨水を貯めることができる。しかし、これからは私たちが想定する雨量以上の雨が降ると考えられるため、駐車場だけではなく、野球場の地下に貯水槽を作る必要があると考えた。地下に貯水槽を作ることにより、さらに多くの雨水を貯水することが可能となる。降った雨を直ちに下水道に流すことなく、大量の雨を貯めておくことができるので、河川への流出を最大限に抑えることができる。後に、貯まった水をグラウンドのコンディション作りのための水撒きや、野球場内のトイレに利用することで、再利用することができる。球場の外壁を植物で覆うことによって、その水を外壁の植物や、駐車場の周りの傾斜の植物に与え、緑を育むことでより良い雨水循環となる。これは野球場ではなく、サッカー場、ラグビー場などの施設でもできることである。

このように施設の駐車場を調整池にし、施設の地下に貯水槽を作れば、この施設は小さなダムのような役割を果たすことができるのである。

